

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 神奈川県教育委員会
2. 取組の名称 : 児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」をはぐくむ小中一貫教育

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

少子化等急激な社会の変化、小学校から中学校へかけての問題行動等の増加、小・中学校の連続的な学びの視点が教育活動や指導に十分には生かされていない等の課題を解決する一つの方策として小中一貫教育校の導入を図る。県として、小中一貫教育推進における市町村の多様なニーズに応えられるよう、支援の在り方(現状の詳細にわたる分析、データの把握、組織体制作り、教員の意識向上等)を整理し、市町村教育委員会への継続的な支援体制を整えるとともに、モデル校での取組の成果と課題を整理・検証し、県内に普及する。

(2) 事業の実施状況

○指定した小中一貫教育モデル校(中学校区)の取組について、情報を収集するとともに、モデル地区の実施委員会や合同研修会等に県の指導主事が参加し、具体的な指導・助言を行いながら取組を進めた。県内の3つのモデル地区ではその地域の特色を生かした取組を実践しており、小中の教職員の授業交流や地域や保護者への広報活動、児童生徒の交流など様々な具体的な取組が推進されている。

○小中一貫教育を行う市町村教育委員会の多様なニーズに応じ、継続的に支援するために県に小中一貫教育サポートデスクを設置し、小中一貫教育推進に係る情報収集と情報提供、また、最終報告やリーフレット等についてのHPアップを行った。

○全県の小中学校等へのリーフレット配付の他、全県指導主事会議や県の教育課程研究会の中でも、県の小中一貫教育推進についての説明を行い広報に努めている。

○各モデル校でのアンケートや実地調査で得た情報を丁寧に分析し、課題や成果を整理し普及することを通して、取組をさらに拡大していく予定である。

(3) 事業の成果

○「神奈川の小中一貫教育校在り方検討会議最終報告」を県内全ての市町村教育委員会、小・中学校等に配付し周知を図った。

○県外の先進地区を視察し、取組の成果や課題についての知見を得た。

○小中一貫教育推進についてのリーフレットを作成し、モデル地区の全教職員、全保護者と県内の各小中学校等に配付し、理解を促進した。

○小中一貫教育校連絡協議会や、小中一貫教育推進会議(有識者会議)の設置により、モデル校間での情報共有、成果の検証、今後の推進方策等について助言を得ながら、検討することができた。

○新たにモデル校を希望する地区や小中一貫教育導入について研究する地区が増えた。

(4) 今後の取組予定

- モデル校を広げ、取組を支援する。
- 県内、県外の先進地区を視察しその取組の成果や課題を本県の取組に活かす。
- 小中一貫教育校連絡協議会、小中一貫教育推進会議を設置し、モデル校での情報交換や共有を進める。
- 「小中一貫教育推進のためのガイドブック」(名称未定)を作成し、モデル校地区での成果や課題を盛り込み、県内他地区での推進に役立てる。
- 総合教育センターと連携し、小中一貫教育推進のための研修を実施する。

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

- モデル地区(中学校区)の小中一貫教育推進をサポートすると共に、その取組の成果と課題を検証・分析し、先進地区の視察により得た知見とともに、県内の他地区に波及していく。
- 今後、県として小中一貫教育を推進する市町村教育委員会を継続的に指導・助言、援助していくために、細部にわたる現状の分析、(人的支援、物的支援を含めた)県としての支援の在り方、市教育委員会や学校区の組織体制づくり、県や市町村の研修体制等について整理していく。

(2) 取組 I の実施状況 (平成27年度)

10月	実地調査(海老名市立門沢橋小学校)(10/7) かながわの小中一貫教育校の在り方検討会議 最終報告 手交(10/13) 最終報告HPアップ 小中一貫教育サポートデスク設置 実地調査(海老名市立社家小学校)(10/14) 実地調査(海老名市小中一貫教育実施委員会)(10/19) 小中一貫教育サミットin三条参加(10/22-23) 2名 実地調査(海老名市立有馬小学校)(10/26) 実地調査(海老名市立社家小学校)(10/28)
11月	小中一貫教育校連絡協議会(第1回)(11/4) 実地調査(秦野市立東中学校)(11/6) 県外先進校視察(埼玉県八潮市大原中学校区)(11/12) 2名 実地調査(秦野市立北中学校)(11/16) 実地調査(海老名市立門沢橋小学校)(11/18) 実地調査(箱根町立湯本小)(11/20) 実地調査(海老名市小中一貫教育実施委員会)(11/26) 実地調査(海老名市立有馬中学校)(11/27) 実地調査(海老名市立有馬小学校)(11/30)
12月	小中一貫教育校連絡協議会(第2回)(12/11) 小中一貫教育推進会議[有識者会議](第1回)(12/22) 平成28年度モデル校の募集開始 リーフレット作成

1月	県外先進地区訪問(島根県松江市教育委員会 松江市立ほっとハート東出雲学園) (1/17-18)2名 実地調査(海老名市立門沢橋小学校)(1/20) 小中一貫教育校連絡協議会(第3回)(1/27) 実地調査(海老名市立社家小学校)(1/27) 実地調査(箱根町立箱根の森小学校)(1/28) 県外先進地区訪問小中一貫教育サミットinなら参加(1/29-30) アンケート作成配付(モデル地区)
2月	実地調査(箱根町立湯本小学校)(2/2) 実地調査(海老名市立門沢橋小学校)(2/10) 秦野市小中一貫教育実地調査(北中学校区)(2/16) 海老名市小中一貫教育実施委員会(2/22) アンケート集計 小中一貫教育推進会議(第2回)(2/29)
3月	小中一貫教育リーフレット配付 神奈川の小中一貫教育校在り方検討会議最終報告の配付 アンケート分析 平成27年度成果と課題のまとめ 完了報告書等作成・提出

(3) 取組の成果

<p>○「神奈川の小中一貫教育校在り方検討会議最終報告」を県内全ての市町村教育委員会、小・中学校等に配付し周知を図ったことにより、新たに、小中一貫教育導入に向けて、研究を進める市町村が増えた。</p> <p>○県外の先進地区を視察し、取組の成果や課題についての知見を得、それを集約して、小中一貫教育校連絡協議会や小中一貫推進会議の中で、情報提供することを通して、今後の市町村の推進に役立てることができた。</p> <p>○小中一貫教育校連絡協議会を3回実施し、モデル校間での情報共有や検証のためのアンケート項目等について話し合いを実施し、取組の中で知見を生かすことができた。</p> <p>○小中一貫教育推進会議(有識者会議)を2回実施し、モデル校や県内での今後の小中一貫教育の推進方策等について検討し、そこで得た知見を、連絡協議会でモデル校に情報提供することができた。</p> <p>○小中一貫教育推進についてのリーフレットを作成し、モデル地区の全教職員、全保護者と県内の各小中学校等に配付し、意識付けを図った。</p> <p>○モデル地区での共通アンケートを実施し、1年終了時点での、教職員、児童・生徒、保護者、地域の方の小中一貫推進に関する意識や認識についての情報を得ることができた。</p>

(4) 今後の取組予定

<p>○モデル校を1地区加え、来年度は4地区での取組を支援していく。</p> <p>○県外や県内の先進地区を視察しその取組の成果や課題を本県の取組に活かす。</p> <p>○小中一貫教育校連絡協議会を引き続き開催し、モデル校での情報交換や共有、成果や課題についての情報を収集、分析し、県内市町村に発信する。</p> <p>○小中一貫教育推進会議を引き続き開催し、有識者の助言を得ながら、県の小中一貫教育の推進を図る。</p> <p>○「小中一貫教育推進のためのガイドブック」(名称未定)を作成し、モデル校地区での成果や課題を盛り込み、県内他地区での推進に役立てる。</p> <p>○総合教育センターと連携し、小中一貫教育推進のための教職員の研修について研究し、実施することにより、小中一貫教育の理解を促進する。</p>

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	海老名市教育委員会	
Ⅱ-2	秦野市教育委員会	

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 1

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 海老名市教育委員会

住所 : 神奈川県海老名市勝瀬175-1

代表者職・氏名 : 教育長 伊藤 文康

2. 取組の名称 : 「授業づくりと地域連携による海老名型小中一貫教育」

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

平成29年度の市内全小中学校（小学校13校、中学校6校）小中一貫教育実施に向けて、モデル中学校区（小学校3校、中学校1校）を設置して研究を進める。
研究・実施にあたっては「えびなっ子しあわせプラン推進会議」を立ち上げ、市全体の課題である「確かな学力の定着」（平成26年度全国学力・学習状況調査の教科調査結果では小学校が全国をやや下回っている）、「生徒指導上の諸問題の改善」（平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査では、小学校から中学校へあがると不登校が約4倍、いじめ認知件数が約2倍、暴力行為が約15倍に増加）を目的としてモデル校の研究の検証と市内全域での実施にむけた準備を進める。
また、モデル地区の取組では、「学力向上」と「豊かな心の育成」を目標とし「学びのつながりを創る」「人のつながりを創る」を研究の柱として、小中の授業づくりを中心に、児童生徒・教職員の交流とともに地域との連携による小中一貫教育をめざす。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

10月	実施委員会・担当者会議（各1回） 中学校教職員による小学校への乗り入れ授業 校内研究会への相互参加 児童生徒の交流活動（中学校合唱祭りハーサル参観）※バス4台 教職員スポーツ交流会、懇談会 小中一貫教育全国サミット参加（新潟県）
11月	実施委員会・担当者会議（各1回） 中学校教職員による小学校への乗り入れ授業 校内研究会への相互参加 児童生徒の交流活動（総合的な学習発表会） えびなっ子しあわせプラン推進会議
12月	実施委員会・担当者会議（各1回） 中学校教職員による小学校への乗り入れ授業 校内研究会への相互参加 児童生徒の交流活動（中学生による小学校へのあいさつ運動）

1月	実施委員会・担当者会議（各1回） 中学校教職員による小学校への乗り入れ授業 校内研究会への相互参加 小中一貫教育全国サミット参加（奈良県）
2月	実施委員会・担当者会議（各1回） 中学校教職員による小学校への乗り入れ授業 校内研究会への相互参加 児童生徒の交流活動（総合的な学習発表会）
3月	実施委員会・担当者会議（各1回） 中学校教職員による小学校への乗り入れ授業 校内研究会への相互参加 児童生徒の交流活動（中学生による学校説明、小学生体験入学）※バス4台 小学校6年生へのアンケート調査・分析 小6・中1の児童生徒、保護者、教職員、地域アンケート 1年次報告まとめ えびなっ子しあわせプラン推進会議

(3) 取組の成果

<p>○モデル中学校区の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員合同研修会2回…講演・協議会による小中一貫教育の共通理解 ・家庭、地域向け講演会1回…地域住民への周知、理解 ・校内研への参加4回…お互いの授業づくりの理解、学びのつながりづくり ・中学校教員による乗入授業4名…学びのつながりづくり、児童生徒理解 ・児童生徒の交流活動5回…中学生生活のイメージづくり、自己有用感の育成 ・小中一貫教育実施委員会11回…小中一貫教育目標の策定、実施計画作成 ・小中一貫教育全国サミット参加2回…先進的取組事例の収集・分析 ・中間報告会（年度末）1回…成果と課題の確認、保護者等への周知 <p>○市全域での取組に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会での講演2回…校長・教頭の共通理解 ・研修会でのモデル中学校区の間接報告2回…他中学校区への周知 ・中学校区ごとの校長協議会1回…児童生徒・家庭・地域の分析

(4) 今後の取組予定

平成28年度	○モデル中学校区（海老名市立有馬中学校区）による取組
	○モデル中学校区以外の全中学校区による準備委員会の設置
平成29年度	○市内全中学校区による実施

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－２

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 秦野市教育委員会

住所 : 神奈川県秦野市桜町一丁目3番2号

代表者職・氏名 : 教育長 内田賢司

2. 取組の名称 : 秦野市幼小中一貫教育の推進

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

平成23年度から全市的に取り組んできた幼小中一貫教育のこれまでの成果と課題を整理し、連続性、系統性を重視した実効性のある教育課程を作成し活用することで、子どもたちの力を伸ばすことを取組のねらいとした。授業力の向上を目指した授業研究を小中で共に進め、発達段階に対応した共通の指導方法等を工夫し、連続性、系統性のあるまなびの場を確立して中学校区全体の学力向上を図ること、特に小学校において専門性が要求される理科に関して、中学校の教職経験がある指導員による高学年での教科担当制を実施し、教育内容の系統性を重視した教育活動を行うことにより、児童の学習意欲の向上を目指した。また保護者、地域と一体となった幼小中一貫教育を推進するため、各中学校区で広く周知を図ることも取組のねらいの一つとした。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

10月	<ul style="list-style-type: none">・教育委員会事務局で、秦野市教育振興基本計画－はだの教育プラン－後期計画策定に向けた取組（年度内継続）・各中学校区で公開授業研究（幼小中教職員参加）などを開催・全国学力学習状況調査の理科の結果及び理科に関する質問紙の結果分析・理科の教科担当制実施小学校（北小、末広小）で中学校の教職経験を持つ指導員が高学年の授業を担当（4月より通年）・県の推進モデル校（北小中）においては、中学校教員が小学校に出向き、児童と給食交流、及び第2回幼小中一貫教育担当者会を開催
11月	<ul style="list-style-type: none">・秦野市幼小中一貫教育モデル研究委託中学校区（東幼小中）の研究発表大会開催（市内全幼小中代表、保護者、地域、教育関係者参加）・県の推進モデル校においては、第2回 幼小中一貫教育合同研修会開催（北中学校公開授業研究会「学び合い、高め合う授業づくり」への北幼小中教員全員参加）
12月	<ul style="list-style-type: none">・秦野市幼小中一貫教育推進検討協議会開催（学識者、各幼小中管理職代表、幼小中保護者代表、教育委員会事務局参加）
1月	<ul style="list-style-type: none">・県の推進モデル校においては、新入生保護者説明会の実施、小学校授業参観日の参観、市駅伝大会参加に小中学校職員合同チームで参加

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区で今年度の総括を行う「一貫教育連絡会」（幼小中担当者、管理職参加）を開催 ・理科の教科担当制実施小学校（北小、末広小）における、教職員アンケート及び児童アンケート準備 ・県の推進モデル校においては、給食交流及び第2回北地区幼小中一貫教育合同研修会（「確かな学びと豊かな育ちを求めて」小林宏己先生(早稲田大学)）、第3回北地区幼小中一貫教育担当者会、新入児学校見学会、小中連絡会（小学校6年生授業の参観・情報交換会）の開催
----	--

(3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> ①秦野市幼小中一貫教育モデル研究委託中学校区の研究発表大会開催と「はだの教育プラン」後期計画策定 ②各中学校区連絡会、合同研修会を通じた、これまでの幼小中一貫教育の取組の価値づけ ③理科の教科担当制実施小学校での授業の深まり ④各中学校区での広報による、保護者や地域の方の幼小中一貫教育への関心の高まり
--

(4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ①教育プランに沿った、連続性、系統性を重視した幼小中一貫教育の視点をもった教育課程の作成、見直し ②幼小中一貫教育を通じた保育・授業改善の推進 ③地域ぐるみの幼小中一貫教育の推進 ④市の幼小中一貫教育リーフレットの作成、ホームページを通じた広報
